

『「第四期岩崎式日本語」 大全』 別添資料(2)

Iwasaki's System of Reconstructing Japanese IV

記号・用語・概念の一覧

主格主語言語性の完成を指向する現代日本語を母語とする解離性障害者・言語障害者等の多種の非主格主語的な解離自己・放散自己・超自己による自己言及を可能とするための日本古語を基層とする後驗芸術言語としての新生日本語の考案、現代日本語及び当新生日本語によるこれらの自己に関する超言語学的・超哲学的・超精神病理学的・超数学的言明のイデアルな記述の試み、我々の涙と吐息への還元、そしてそれら全てへの情熱、東洋的実存の精神について

2012年3月1日 初筆

2015年11月25日 改筆

著 : 岩崎 純一

監修 : 岩崎式日本語研究会

協力 : 花薄会

協力 : 『新純星余情和歌集』全解釈プロジェクト

本稿は、岩崎式日本語体系に用いられる記号・用語の一覧である。

下線のない記号と概念は、既存の言語学・日本語学・精神医学・哲学・数学・論理学・物理学などの記号と概念である。

下線のある記号と概念は、全て岩崎式日本語に固有のものである。既存概念に新記号を与えた場合、記号のみに下線を付した。可能な限り各分野の記号法の慣例にならった。(英単語の頭文字を使用するなど。)

岩崎式日本語体系は各分野を網羅的に扱う都合上、既存の記号であっても、分野間で重複する記号については適宜記号を変更した。

- (A) 言語学・哲学・論理学全般に関する記号
- (B) 精神疾患・言語障害に関する記号
- (C) 岩崎式日本語の我・格・言に関する記号
- (D) 岩崎式日本語の我燈・文に関する記号
- (E) 文の成分に関する記号
- (F) 品詞に関する記号
- (G) 格に関する記号
- (H) 岩崎式日本語の算術的記述に関する記号

- (A) 言語学・哲学・論理学全般に関する記号

ISReJP :=岩崎式日本語 (Iwasaki's System of Reconstructing Japanese)

-L :=言語

Umt(l) :=言語 l の母語話者

Upo(l) :=言語 l の使用可能者、潜在的利用者

Pho :=音素

Gra :=書記素

Mor :=形態素

PD(l, A.D.) :=完全辞書 (Perfect Dictionary) (当該西暦(A.D.)年時点における言語 l の全ての形態素を枚挙した仮想辞書)

e.g.) PD(ISReJP, 2012) :=西暦 2012 年における ISReJP の完全辞書

(=ISReJP の固有語彙+SAJPCJP の語彙+方言語彙)

MorPD(l, A.D.) :=PD に掲載された形態素 (Morpheme of -)

MorD(l, d, A.D.) :=ある辞書 d に掲載された形態素

SAE :=標準平均欧州言語 (Standard Average European) : B.L. ウォーフ

SAECW :=標準平均現代欧州語 (- of The Contemporary World) (ウォーフの時代よりもさ

らに世界進出した米国英語を含む欧米先進公用語)

SAJPCJP :=標準平均現代日本語 (Standard Average Japanese of Contemporary Japan)

SA(l) :=標準平均言語 l

e.g.) SA(EN) :=標準平均英語

LF :=語族

e.g.) LF(IE) :=印欧語族

PIE :=印欧祖語

TpL :=主題 (話題) 優勢言語

SpL :=主語優勢言語

TLR :=言語的相対論 (言語的相対性原理) (Theory of Linguistic Relativity): サピア & ウォーフ

UL :=普遍言語 : ライプニッツ

UG :=普遍文法 : チョムスキー

PM :=数学原理 (Principia Mathematica): ホワイトヘッド、ラッセル

PL :=述語論理 (Predicate Logic)

HP :=ヒルベルト・プログラム : ヒルベルト

GIT :=不完全性定理 (Go:del's Incompleteness Theorems):ゲーデル

GaEP :=世界認識 (フーコーの語「エピステーメー」 = “Episteme” にほど近い概念であるが、ISReJP 独自の語で、「社会の知の枠組」よりは「個人の知の枠組」を指す。単に「知」とせず、「世界認識」の語により解説を展開する。)

PCL :=矛盾許容論理 (Paraconsistent Logic)

NML :=非単調論理 (Non-monotonic Logic)

AEL :=自己認識論理 (Autoepistemic Logic)

IUL :=普遍言語アイデア (Idea of Universal Language)

ArayaL :=言語アラヤ識 : 井筒俊彦

OGR :=音幻論 : 幸田露伴

SokuZen :=即然 (主に已然と未然との未分化様態を指す。)

SokuHi :=即非 (中観派や鈴木大拙の「即非の論理」を応用。)

M≡S :=名即心 (めいそくしん。言明「名は心である」。陽明学概念「心即理」の模倣呼称。)

Ga(ZMJD) :=絶対矛盾的自己同一 : 西田幾多郎 (主に ISReJP の空我様態の強調として、あえて用いる語。)

MEGALO-EGO :=メガロエゴ・巨帯自我 (あらゆる文に主格主語が付きうることで、事実上、人類が一神教的絶対神になりきること。)

KC :=コルモゴロフ複雑性

INCOM(l, se) :=言語 l の或る文 Se の読解不可能性・文脈不可解性 (Incomprehensibility)

Se(INCOM) :=読解不可能文・文脈不可解文

e.g.) INCOM(SAJPCJP, Se(INCOM)) :=現代日本語の読解不可能文の読解不可能性
WR :=「女の理由」(Woman's Reason) (シェイクスピアの『ヴェローナの二紳士』に基づく。命題に対する自己言及的な真偽の判定。)

(B) 精神疾患・言語障害に関する記号

MD :=精神疾患 (Mental Disorder) (精神障害を含み、一部の人格障害を除き、発達障害を含む。)

MD(p,q) :=精神疾患分類 p に定義される精神疾患 q の罹患者

SD :=言語障害 (Speech Disorder)

SD(l) :=言語 l を母語とする、または母語としていた言語障害者 (失語症・失文法者)

CMD-p :=精神疾患分類 p (Classification of Mental Disorder)

e.g.) CMD-ICD-10-5 :=『疾病及び関連保健問題の国際統計分類』の中の第五章

SAP :=標準平均者・定型発達者・定常発達者・健常者・標準平均現代ヒト個体 (Standard Average Person): 如何様にも呼ばれているが、いずれもほぼ同じ概念を指す。

SAP(l) :=言語 l を使用する標準平均現代ヒト個体

PDD := 広汎性発達障害

DD :=解離性障害

SCH :=統合失調症

CVD :=脳血管障害・脳卒中

e.g.) Umt(SAJPCJP) ⊂ Upo(SAJPCJP) (現代日本語母語話者は必ず、現代日本語が使用可能な者である。)

e.g.) {r | r ∈ MD(ICD-10, F32) ∧ r ∈ Upo(ISReJP)} :=ICD-10 に定義される鬱病に罹患していて、かつ岩崎式日本語を使用することが可能な者

e.g.) SAP = {∇q ∈ CMD-p, ¬MD(p,q) ∩ ¬SD(l)} :=ある精神疾患分類に定義されるいかなる疾患にも罹患しておらず、かつ、自身の母語については言語障害が見られない者の集合 (q は WHO や APA により操作主義的に定義され、かつ、発達障害の全てと言語障害の一部は精神疾患分類に定義されており、理論上は定型発達者 = 標準平均者と精神障害者 = 非標準平均者とに二分できることから、この定義が成り立つ。)

(C) 岩崎式日本語の我・格・言に関する記号

KA :=格詞

ZE · ZET · ZETTAI :=絶対格

SHIN :=真格

SHIN-L :=真格言語

Ga(SHIN) :=真我

SHIN-Con :=真格連続体

Ga(SHIN)-Con :=真我連続体

CS :=真格交替 (Changes of Shin-kaku)

Evo(SHIN) :=真我進化、真我エボリューション

Ret(SHIN) :=真我溯及、真我レトロアクション

Promo(SHIN) :=真我昇階、真我プロモーション (真私の階層の昇格)

Demo(SHIN) :=真我降階、真我デモーション (真私の階層の降格)

Land(SHIN) :=真我踊り場滞留、真我ランディング (真私の階層間での滞留)

SHINn(x) :=我燈値 x が含まれる n 番目の真格

Pre-l :=ある真格・主格言語 l 以前の真格・主格言語

Post-l :=ある真格・主格言語 l 以後の真格・主格言語

EgoMA(11,12,13) :=言語 11 母語話者が言語 12 によって言語 13 の全ての文を解析した場合に言語 13 の格配列 (Morphosyntactic Alignment) を出力する関数

KU :=空格

KU-L :=空言語 (空格言語)

ZEN :=前格

ZEN-L :=前言語 (前格言語)

GI :=擬格

GI-L :=擬音・擬態言語 (擬格言語)

SHO :=初格

SHO-L :=初言語 (初格言語)

KU-SHIKI :=空識間格

KU-SHIKI-L :=空識間格言語

SHIKI :=識格

SHIKI-L :=識格言語

SHIKI-GU :=識具間格

SHIKI-GU-L :=識具間格言語

GU :=具格 ※INS と異なる概念であることに注意

GU-L :=具格言語

GU-KYU :=具及間格

GU-KYU-L :=具及間格言語

KYU :=及格

KYU-L :=及格言語

KYU-KI :=及希間格

KYU-KI-L :=及希間格言語

KI :=希格

KI-L :=希格言語

KI-NO :=希能間格

KI-NO-L :=希能間格言語

NO :=能格 ※ERG と異なる概念であることに注意

NO-L :=能格言語

NO-I :=能意間格

NO-I-L :=能意間格言語

I :=意格

I-L :=意格言語

I-KATSU :=意活間格

I-KATSU-L :=意活間格言語

KATSU :=活格 ※ACT と異なる概念であることに注意

KATSU-L :=活格言語

KATSU-SHU :=活主間格

KATSU-SHU-L :=活主間格言語

SHUn :=n 番目の主格

SHUn-L :=n 番目の主格言語

G :=言 (げん)

Gb・b :=心描言

Gk・k :=抽化言

Gs・s :=抽出言

Gm・m :=未然言

Gi・i :=已然言

(D) 岩崎式日本語の我燈・文に関する記号

TO :=燈詞。「言(G)」の品詞としての側面。

Ga :=我燈 (がとう)。多くはこれのみで我燈句を表す。

Ga(a) :=真我 (主我) 様態 a、または、a を持つ者

Ga=N+TO+KA+TO

GaD・Ga♂ :=男我燈

GaJ・Ga♀ :=女我燈

GaM · GaM[♀] := 巫女燈

GaK := 神燈

GaH := 仏燈

GaN := 我名詞 (自己を表す「わ」「私」「僕」なども含むが、普通はそれ以外の我燈を表す「彼」「彼女」「あなた」などの名詞を表す。)

Ga(1-m1) := 一階の m1 番目の我燈

MetaGa(n-mn) := n 階の mn 番目の超我燈 (n は普通 2 以上の自然数だが、n=1 のときも用いてよい。)

Ga(1/m1) := 一階の m1 番目までの我燈

MetaGa(n/mn) := n 階の mn 番目までの超我燈 (n は普通 2 以上の自然数だが、n=1 のときも用いてよい。)

Se := 文

Se(l) := 言語 l 内の文

【Se(l)】 := 言語 l 内で生成しうる全ての文の集合

Se(n) := n を含む文

Se(1/1) := 単我燈文 (一階我燈の格詞が一個ある文)

Se(1/m1) := 複我燈文 (一階我燈の格詞が m1 個ある文)

MetaSe(1/1, 2/1, …, n/1) := 超単我燈文 (一階から n 階まで我燈の格詞が 1 個ある文)

MetaSe(1/m1, 2/m2, …, n/mn) := 超複我燈文 (一階我燈の格詞が m1 個、二階我燈の格詞が m2 個、…、n 階我燈の格詞が mn 個ある文)

Se[1/{Ga(1-1)+ Ga(1-2)+…+Ga(1-m1)}+…+n/{ Ga(n-1)+ Ga(n-2)+…+Ga(n-mn)}] := 多我燈文 (同一階層に我燈が複数ある文)

Se(Ga)~ := 我燈が同一の文 (我燈同一文)。普通、SAJPCJP 文を挙げる。

[Se(Ga)~] := 我燈が同一の文の同値類

Se($\bar{\square}$ Ga)~ := 我燈以外の形態素が同一の文 (我燈補形態素同一文)。普通、SAJPCJP 文を挙げる。

[Se($\bar{\square}$ Ga)~] := 我燈以外の形態素が同一の文の同値類

【Se(ISReJP)】 / Se(n·m)~ := ISReJP の全ての文を我燈同一文で分けた商集合

【Se(ISReJP)】 / Se($\bar{\square}$ n·m)~ := ISReJP の全ての文を我燈補形態素同一文で分けた商集合

※ 代表元 (だいひょうげん) Se(n·m)~ 及び Se($\bar{\square}$ n·m)~ は Se(SHU4) とすることが多い。

Se(N-KOTO) := 「コト」文。真我昇階を起ししやすい構文の一つ。

e.g.) 「春が来たことが嬉しい」

Se(N-MONO) := 「モノ」文。真我昇階を起ししやすい構文の一つ。

e.g.) 「心を安らげるものがほしい」

Se(C-JPa·TO) := 「ト」文。真我昇階を起ししやすい構文の一つ。

e.g.) 「駅は向こうですと言った」

Se(N-KOTO→φ) := 「コト」 抜き文。真我降階を起ししやすい構文の一つ。

e.g.) 「春が来たが嬉しい」

Se(N-MONO→φ) := 「モノ」 抜き文。真我降階を起ししやすい構文の一つ。

e.g.) 「心を安らげるがほしい」

Se(C-JPa-TO→φ) := 「ト」 抜き文。真我降階を起ししやすい構文の一つ。

e.g.) 「駅は向こうです言った」

Se(N-KOTO<.>φ) := 「コト」 半ば文。真我踊り場滞留を起ししやすい構文の一つ。

e.g.) 「春が来たん (の) が嬉しい」

Se(N-MONO<.>φ) := 「モノ」 半ば文。真我踊り場滞留を起ししやすい構文の一つ。

e.g.) 「心を安らげるん (の) がほしい」

Se(C-JPa-TO<.>φ) := 「ト」 半ば文。真我踊り場滞留を起ししやすい構文の一つ。

e.g.) 「駅は向こうです言うた」

(E) 文の成分に関する記号

S := 主語

O := 目的語

P := 述語

M := 修飾語

Arg := 項

Val := 結合価

Ph := 句(phrase)

e.g) NPh := 名詞句

Te := 時制

PST := 過去時制

PRS := 現在時制

FUT := 未来時制

As := 相

PERF := 完了相

PROG := 進行相

Mo := 法

Mo-ipf := 未然形

Mo-adv := 連用形

Mo-pre := 終止形

Mo-att := 連体形

Mo-con := 假定形 (已然形)

Mo-ipa := 命令形

Vo := 態

AV := 能動態

PV := 受動態

MC := 中間構文

CHU := 中我態

Po := 極性

Af := 肯定

Ne := 否定

(F) 品詞に関する記号

N := 名詞

GG := 文法性

Ger := 動名詞

PN := 代名詞

V := 動詞

Vint := 自動詞

Vt := 他動詞

Ve := 能格動詞

Vina := 非対格動詞

Vine := 非能格動詞

Vb := 原動詞

Vs := 自然動詞 (Spontaneous verb)

Va := 人為動詞 (Artificial verb)

Adj := 形容詞

Adiv := 形容動詞 (Adjective verb)

Adv := 副詞

Fadj := 連体詞 (Fixed adjective)

CNJ := 接続詞

INT := 感動詞

JPa := 助詞 (Japanese particles)

C-JPa := 格助詞

Adv-JPa := 副助詞

End-JPa :=終助詞

Con-JPa :=接続助詞

JPaV :=助動詞

(G) 格に関する記号

NOM :=主格

ACC :=対格

GEN :=属格

DAT :=与格

INS :=具格

PLA :=処格

ALL :=向格

ARR :=着格

ABL :=奪格

ERG :=能格

ABS :=絶対格

ACT :=活格

STA :=不活格

TOP :=話題格 (主題格)

OBL :=斜格

SepERG :=分裂能格性

(H) 岩崎式日本語の算術的記述に関する記号

α :=格値

β :=格達成願望値

γ :=格達成度数

V-Ga :=我燈積

$\Phi(a)$:=a のゲーデル数

※ 以下、カッコ「」が体系 P における意味、カッコ『』が ISReJP における意味。

0 := 「ゼロ」『Ga(ZEN)』

f := 「後続者」『ある Ga の後続我』

¬ := 「否定」『極性 Po のうちの否定 Ne。Ga(KU)や Ga(SHIKI)において即非文 Se(SokuHi)』

(命題 $A \Rightarrow \neg$ 命題 A) を形成する』

\wedge := 「連言」

\vee := 「選言」

\rightarrow := 「含意」

$=$:= 「同値」

\forall := 「全称」

\exists := 「存在」

(:= 「開始カッコ」

) := 「終了カッコ」

, := 「カンマ」

+ := 加算。形態素について使われた場合、形態素の羅列・膠着を表す。

$V\text{-Ga}(\alpha, \beta, \gamma)$:= 我燈積

$(k=1) \sum \text{ISReJP}(n)_{ak}$:= k が 1 から n のときまでの総和。形態素について使われた場合、形態素の羅列・膠着を表す。

$(k=1) \prod \text{ISReJP}(n)_{ak}$:= k が 1 から n のときまでの総乗。ISReJP 体系においては、ゲーデル体系の全称記号としては用いないので注意。

$\text{Pr}k$:= k 番目の素数

$\text{Q}k$:= ある ISReJP 文内にこれ以前に登場した全ての形態素のうち最後の形態素 k の後続形態素

$g(l)$:= 言語ゲーデル写像